東海第二原発の再稼働に同意しません

PCR検査の無料実施、補償の充実

ごあいさつ

東海村では、原発との緩衝地帯のない「歪められた開発」が行われてきました。世界はエネルギー転換のさなかにあり、再生可能エネルギーの導入がすすんでいます。村民の大きな居住不安の元となっている老朽・被災の東海第二原発を再稼働させなければならない理由はもはやどこにもありません。幅広い住民の参加で原発に代わる産業振興を構想すべきです。

現村政にはジェンダー視点が欠落しています。原子力安全対策懇談会や地域防災会議に地元の女性委員が一人もいません。女性の意見が積極的に村政に反映されなければなりません。

コロナ禍でいのちも生活も危いいま、抜本的なコロナ対策をはじめ、医療や福祉・教育の充実・強化こそ必要です。

いぬい やすよ(乾 康代)のプロフィール

○1953年生。水戸市在住。 ○専門は住居計画、住環境計画、都市計画。

○大阪大学文学部哲学科、大阪工業大学工学部建築学科卒業、大阪市立大学大学院生活科学研究科単位取得退学、博士(学術)。茨城大学教育学部教授退官後、現在、茨城大学非常勤講師、新建築家技術者集団代表幹事。

【主な著書】『原発都市 歪められた都市開発の未来』

☆いぬいやすよの【ブログ】「須和間の夕日」をぜひご覧ください。

ブログ
「須和間の夕日」

ブログは、主に原電茨城事務所前での星空講義(毎週金曜夜)や講演録、日頃考えていることを書いています。

8月6日 記者会見(茨城県庁・県政記者クラブ)
阿部功志村議、いぬいやすよ氏、塚原千枝子代表、大名美恵子村議
(いのち輝く東海村の会)

いのち輝く東海村の会 〒319-1117 東海村東海 2-1-23 電話 287-3088 Fax 287-3087

※ボランティア・サポーター大募集(ご連絡ください)。

すべてのいのちが輝く東海村の未来のために

今後の4年間は、東海第二原発の再稼働の是非を判断することになり、全国的にも注目されています。

村内には多数の原子力関連企業があり、そこに働く従業員・家族もたくさんいます。けれども、ひとたび原発で過酷事故が起これば、いのちも暮らしも、ふるさとも失うことは、福島原発事故で明らかです。

私たちは、子や孫の世代に危険な原発事故のリスクを残すことはできません。すべてのいのちが輝く東海村の未来のために、力を合わせましょう。

いぬい やすよ のおやくそく

1 ジェンダー平等が息づく村
- ○女性の社会参加を推進し、女性の願いがとどく村政に
- ○地域防災会議など政策検討・決定機関に女性登用を
- ○多様な性が輝く村に

2 新型コロナ感染対策の抜本的強化
- ○希望する村民にPCR検査を無料で実施
- ○減収企業・個人に村独自の補償を

3 東海第二原発は再稼働せず、廃炉後の村づくりを準備
- ○確実に訪れる廃炉後の村づくりを今から準備
- ○原発関連企業の労働者の就労確保

4 再び「福祉日本一の村」に
- ○廃止された福祉施策を復活し豊かな財政力を福祉に

5 家族農業を守り育成し、豊かな自然環境を守る
- ○農家の育成を強め、食材の安定供給を
- ○恵まれた農地を守り、自然環境を保全

6 未来を担う子どもたちの育ちと教育の環境を整備
- ○少人数学級制度を拡充
- ○視力低下等を防ぐ教育環境を整備
- ○人権教育に力を入れたいじめ対策

いぬい やすよ さんは、都市計画・住環境計画を専門として茨城大学教育学部に赴任後、2004年に東海村住まいづくり検討委員会に加わって住宅調査を皮切りに、村の都市計画の問題、とりわけ原発周辺に緩衝地帯もなく多数の住宅が密集してきた経過に強い関心を寄せられ、調査・研究を続けてこられました。

私も推薦します

乾康代さんは、勇気のある優れた研究者だと思っていました。今回の決意に感動しています。大変厳しい戦いですが、原発によらない村づくり、誰もが幸せに生きる東海村の未来に挑戦する乾さんを応援致します。

和洋女子大学名誉教授・新建築家技術者集団代表幹事　中島　明子

福島第一原発事故から10年、改めて原発事故の禍酷さ、異常さに向き合っています。「安全神話」のもと、電源立地交付金頼みだった自治体、地域社会や地域経済そして人々のいのちと暮らしが、ひとたび事故を起こすとどういうことになるのか、塗炭の苦しみです。本来の地域社会や地域経済のあり方、地方自治のあり方を取り戻すために、乾さんのご決断を心から応援します

福島大学名誉教授（福島県復興ビジョン検討委員会座長）　鈴木　浩

決意に感謝します。まず原発廃止です。東海村の未来は、東海第二原発の廃炉が確定した後に論じられるものと信じています。ジェンダー平等の追求も大賛成、時間をかけても実現しましょう。

東海第二原発差止訴訟原告団共同代表　相沢　一正

新型コロナウィルスの感染爆発で、あらためて政治の役割が問われています。無料の検査をしないのはなぜ？幼稚園が4つから1つに？私たちは医療や福祉・子育て優先の、いのちと生活を守る村政を望みます。

子や孫たちが安心して住み続けられる街を求めます。JCO臨界事故、福島原発事故の悲劇は二度とごめんです。そんな私たちの願いを乾さんに託します。ご一緒に新しい東海村をつくりましょう。

いのち輝く東海村の会　代表　塚原千枝子

いのち輝く東海村の会 いぬいやすよ

ホームページ⇒